

【議事(1)】

文科省の坂口企画官が資料 14-1(「宇宙の日」記念行事)を説明した後、短い質疑応答があった。(例年の通り、作文・絵画コンテスト、フェスティバル、宇宙展を行なう。今年から変わった点は、協力する科学館の数が 72 館から 75 館に増え、協力科学館のない県(10 県)は、宇宙フォーラムが応募を受け付ける。)

松尾: 釧路というのは土地勘なるものが有るのか。

文科省 坂口: これまで本州と九州が多く、東が少なかったこと、釧路市はこの種のイベントの経験があり協力できるとのこと、ここで行うことでイベント効果が期待できること、などを考慮して決まった。

池上: 絵画コンテストの最終審査に、例えば宇宙飛行士というのは無理ですか。審査員の顔ぶれで応募が変わってくると思う。松本零士さんは何処でも使っているから使えない¹けれど、そうすると、「えっ」とか言って応募する人が増える。其処までは考えていないのか。

文科省 坂口: 従前は松本零士さんや、子供の絵画を指導されている方とか、お願いしてきた。ご指摘は貴重だと思いますが、今の処、そのようには予定していない。

松尾: 他に無いですか。

次は、これは同じようであるが、そうでないところもあるのかな。

¹ 松本先生が YAC の会長で、青少年を宇宙に呼び込む活動に熱心なことをご存じないのか。また、自ら進んで貢献されているこの方を、「使う」と表現するのは如何なものか。

【議事(2)】

JAXA の広浜宇宙教育推進室長が資料 14-2(衛星アイデアコンテスト)を説明した後、活発な質疑応答があった。(小中学生を対象に、衛星のアイデアを募集し、優秀作品の個人とチームを宇宙科学研究本部の一般公開日に招待し、表彰するもの。今回は、ペーパークラフトの作品を写真に撮ったものも参加できるようにした。)

青江: 子供たちが集まって時間を過ごし中々良いが、「それで何ぼ」と言うか、判るのであるが税金を使って、宇宙の日の記念行事でコンテストやら何やらやって、アイデアを募集して、色々やって、効果ゼロではないであろうが²、要はこんなもんなんですかね。まあ、やれば良いことが有るかも知れぬと言って、というようなものですかね。

JAXA 広浜: なるべく機会を多くしようというのが根底にある。

松尾: 返事を求められていますか³、今のは。

² 二つの議題に類似性があり、この議題に対して「費用対効果」を疑問視する発言が続いた。旧 NASDA+宇宙フォーラムを認め、旧 ISAS+YAC を否定する意図ではなく、後から発表をした方に質問が集中しただけだと思われる。野本委員が「やめた場合の損失を考えるべきであり、やめることには反対する。」と発言したことで、救われたとの印象を持った。

³ 広浜さんに向かったの発言らしい。「広報・教育」のグランドデザインを決めるのは、宇宙開発委員会か文科省の責任で、JAXA 教育推進室長は、与えられた目標と資金で、計画を具体化するのが責任である。「青江委員の独り言」と解釈するのが良い。

池上:私も良く判らなくて、やっていること自体は別に悪いことではないと思うが、色々法人化した機関がアウトリッジということで、予算を付けてやっている。一体、何でやるかを確り固めていないと、やる方も大変ではないですか⁴。例えば JAXA のビジビリティを上げることもあるかもしれない。教育の一環として宇宙教育をやるというのも有るかもしれない。アメリカの場合、6月になるとスクールバスで何処かに連れて行き、博物館を見学させる。日本より子供をパッと持って行く雰囲気がある。日本はそのような学校の協力を得ることが結構難しい⁵。博物館でも美術館でも、皆がこのようなことをやっているが、効果がどうなのかという議論が有る。その点でどうですか。例えば、この間の H- A ロケットを展示して、非常に評判が良かったし、JAXA の展示ホールに子供が随分来ていた。そういうこととの連携とかはどう考えるか。

⁴ 広浜室長は、教育センターの目標から説き起こし、本コンテストが占める位置付けを示した上で、コンテストの内容を説明している。それを、「何でやるかが固まっていない。」と評価しているのか。説明が理解しきれなかったのか。

⁵ 仰るほどの違いは無い。スクールバスの通学が多く、バスを多く保有しているので、学校の行事に使い易い程度の違いである。

また、人数よりも内容が大切です。参加した子供たちが、感動を覚えることが重要です。感動無しに興味は生まれません。その感動・興味が理科離れから国を救うのです。将来、宇宙科学に進む必要は無く、どんな専門分野であれ、科学や工学に進む気持ちが生まれれば良いのです。

JAXA 広浜:仰るとおりだと思います⁶。ただこれは、最初に言いましたように、我が方の、地域の子供を育てるリーダーを育成するという目的に沿うものであり、絵画とか、他にもやっていることとは違うアプローチになっている。リーダーと子供が何か同じ目標に向かうテーマでやろうとしている。

池上:リーダーは何をやるのですか。ボーイスカウトのようなものはコンセプトが明確だから、リーダーの意味がある。此処で言うリーダーとは何か。

JAXA 広浜:宇宙を素材として、YAC の分団の子供たちに宇宙のことを教える。夜は星を見るときといったことをやるが、その方々が一般の会社の人達のボランティアがベースになっている。その人達が宇宙のことを良く知らないので、詳しい人が先ずそのリーダーに教えるのがリーダー育成のプログラムである。

青江:何とも良く判らないが、例えば、JAXA 教育プログラムとして色々なことをやっているが、学校教育の支援に集中する⁷、

⁶ 「仰る通り」ではないと思うが、どうしてもこの言葉が出てしまうらしい。子供たちを指導することを通じ、必要な「宇宙に関する知識」をリーダーが身に付ける機会を作るのが、コンテストを行なう目的であると、最初に説明している。

⁷ 学校教育にかけている部分を補うように企画するのが良いと思う。学校教育は、進学や受験に偏重していて、それが直る兆しが無い。自ら調べ、自ら考える機会は、学校以外で用意する必要がある。また、此れと並行して、学校で使う補助教材を整えれば、学校教育の偏向を修正する力にもなるであろう。

後の仕事はポツポツやっても効果が無い、入れたリソースに対する効果は学校組織を使うということで、費用対効果は相対的に大きいから、其処だけに入れるとかね。例えばそんな風なことをしないと、これは良いことではあるが、こんなやり方では、「多々益々弁ず」でね、少ないリソースでチョロチョロやったって、「悪いとは言わんけどね。」と言う感想なんですけどね。どうしますかね。悪いとは言わないですけどね。良いことですよ。

松尾:悪いとは言わない割には、随分、仰ったと。

池上:ついでにもう少し言いますと、私も色々、例えばプログラム・コンテストとか、数学コンテストなどが有るが、一番受けているのはロボコンなのです。あれは、正直言ってマスコミが非常に協力している。マスコミに言わせると、テレビ映りが言いという。その辺りまで考えて、マスコミの影響が大きいので、その辺とも良く相談しながら効果を上げることを考えた方が良いでしょう。

青江:少々知恵を絞ったって、**所詮こんなもの⁸**なのです。

池上:いやいや、もっといいアイデアが出てくるかもしれない。宇宙開発委員会は無理かもしれないが。

松尾:コンテスト的な感想については、僕も一寸青江さんと、残念ながら、似たような印象を持っている。ただ、教師との連携、教育を通じて裾野を広げる、単に宇宙のみならず科学に

対する興味を抱いて頂く、これは今までと違ったアプローチで、システムティックに対象を増やしていく可能性があるので、僕は其処には期待をしています。ただ、コンテストについては、一寸、賑やかで楽しいかもしれないけれど、多少、青江さんと似たような感じを持っている。これも感想ですから。

青江:役所のやっているこれも、其れに近いですね。

松尾:ただ、むしろ、先生にアクセスし、それで子供たちの教育にアクセスしようというアプローチは、大変新しい良い方法だと、僕自身は思っている。

青江:だから、同じやるのであれば、そういうハッタン(?)効率が良くと、学校組織を使って、**(末尾が途切れる。)**

野本:悩ましいところで。正に青江先生が仰るとおり、悪いとは言わない、ただ、どれだけ、それで、どうなのかは確かに疑問があると思う。けれど、「**じゃあ、何もなくて良いのか。⁹**」と、聞かれたときに、何もしないのもまた問題かというのが有る。アイデアコンテストの募集は良いが、募集したアイデアがその後どうなるのか、ただ集めました、ただやりました、表彰しました、で終わってしまうのか、その後が有るのか、で違ってくると思う。出したアイデアを、その人達に作って貰う、ペーパークラフトでもいいから、**(割り込まれる)**

青江:そしたら、また、お金が掛かる。

⁸ 評価する言葉が使われている。「大したことが出来ていない。」との意味がある。参集者数で評価するのか、子供たちの感想文の内容で評価するのか。評価の結果は違ってくると思う。

⁹ 大変重要な質問であり、コンテストばかりか「宇宙活動全体」に対しても重要な投げかけである。今までに取り組んできたことをやめるのと、元から手をつけないことは、意味するものが全く違う。

野本:それはJAXAがお金を出すのではなく、(再度割り込み)

青江:「一等賞は、上げてあげます。¹⁰」みたいになれば、また、膨大なお金が掛かる。

野本:いや、上げる話ではないと思う。また、青江先生のように、一箇所集中も、やはり、ヘッジとしてあちこちに足を掛けておくのは悪くないと思う。いろいろのことをやるのは良いとは思いますが、ただ、結局、YACだけにしていると、YACの範囲を出ないのであれば、既にYACの子供たちは宇宙に興味を持ってやっているから、YAC以外の人に広がらないなら意味が、少し、少ないという気がする¹¹。今まで興味の無かった子達が参加する形になれば良いが、何か、其処までは行っていないような、「YACにおんぶに抱っこ」と言う一寸問題かなと思う。「やめてしまえ」は一寸暴言だと思います。

松尾:この件、宇宙開発委員会としては統一見解を出しませんの

で。色々ご参考になすって、今後の活動に磨きをかけていただきたいと思います。よろしゅうございますね。

¹⁰ 「ペーパークラフトで良いから。」の部分聞いていただけなかったようである。小中学生の力で、衛星が纏められるのか。これ以外に、高専や大学を対象にした衛星コンテストがある。それと同一視したら、議論が噛み合わないと思う。

¹¹ 「どの程度広がるのが適当なのか」の判断が難しいのだと思う。YACに入って、コンテストで頑張っ、ご褒美として招待されて表彰されるのも、良い経験ではないかと思う。YACに入ろうという動機付けになっている。しかし、YACの会員拡大のために税金を使うという構造はよくないので、適宜、経費に制約をつけることになるのであろうか。